

# 福島県職員との交流でふくしまの復興と京都の防災力向上の取組みを推進！

## 福島県への災害派遣経験について

- 派遣期間：平成26年4月1日～9月30日（6ヶ月）
- 派遣先：相馬港湾建設事務所（福島県相馬市）
- 業務概要：災害復旧支援業務（漁港の復旧工事）
  - ・工事監督、設計書作成
  - ・災害査定再調査への対応
  - ・水産庁変更協議資料の作成 他
- 建設交通部の取り組み：平成23年度から延べ50人を派遣



## 災害派遣を通して感じたこと（気付き）

- 災害復旧業務に携わり、大災害からの復旧、復興の難しさを実感
- 福島県職員への多大な負担の発生
- 京都府に帰任後、復興に関する報道の減少を実感

- 現地ではしか得られない情報を広く共有できないか？
- 京都府は大規模災害にどう対応していくべきか？

「大規模被災を経験した自治体に学ぶ」ことが重要

## 建設工事管理研修（技術報告会）における福島県職員の特別発表（計画）

- 建設工事管理研修（技術報告会）：京都府及び府内市町村の技術職員を対象に、大型プロジェクトの進捗状況や先進的な工法等の情報共有を図るため、毎年一回開催している研修
- 福島県職員による東日本大震災の発生と復旧、復興をテーマとした発表を計画  
目的：①大規模災害への備えを先例から学ぶ ②福島県の復旧、復興状況の広報 ③派遣職員の情報周知

## 福島県職員の発表実施（実行）

- 平成27年1月30日（金）技術報告会 開催
- 聴講者数：73名（京都府：42名 市町村：31名）
- 福島県職員の発表要旨
  - ・福島県の被災規模について
  - ・被災後の各部署の組織改正
  - ・被災当初発生した問題点等
  - ・現在までの復旧、復興状況
  - ・今後の課題
- アンケート意見抜粋：
  - ・災害発生時の初動対応、問題点など貴重な話を聞くことができ、有意義な発表だった。
  - ・自分の所属でも大規模災害発生時の対応を参考に、防災に取り組みたい。
  - ・来年は自分も災害派遣に参加したいと思った。
- 発表者の派遣旅費は、全日本建設技術協会の災害講師派遣への助成制度を活用



## 最後に（評価、改善）

- 今回の取り組みは、派遣を受け入れた側が派遣元を訪問し、派遣概要等について発表するという新たな試みを創出することができた。
- 大規模被災を経験した自治体から不測の事態や教訓について直接学ぶ機会が生まれたことで、技術職員の防災意識の醸成を図ることができた。また、派遣未経験者への情報提供を行うことができた。
- 災害派遣を通して築かれてきた人脈を充実し、情報共有を図ることにより、府民の安心・安全を守る防災の取組みに繋がっていきたい。